

# 環境経営レポート

活動期間：2022年4月1日～2023年3月31日



 株式会社 **ライト** RIGHT co.,ltd.



エコアクション21

認証番号 0003721

# 目次

1.	ごあいさつ	1 頁
2.	環境方針	2 頁
3.	事業活動の概要	3 頁
4.	E A 2 1 推進体制と役割	4 頁
5.	2021 年度環境経営目標とその実績	5 頁
6.	主要な環境活動の取り組み	6～9 頁
	6-1. 電気量の削減と評価	6 頁
	6-2. ガソリンの削減(燃費率向上)と評価	7 頁
	6-3. 排水量の削減と評価	8 頁
	6-4. 廃棄物の削減と評価	9 頁
7.	専門分野での取り組み	10～12 頁
	7-1. 環境配慮品の拡販活動と評価	10 頁
	7-2. 取り扱い商品紹介	11～12 頁
8.	環境教育・訓練実地状況	13 頁
9.	全社環境経営目標 中期計画	14 頁
11.	環境関連法規制の遵守状況	14 頁
12.	代表者による全体評価と見直し	15 頁

## ごあいさつ

### 快適FAを創造する

FA（ファクトリーオートメーション）の専門商社として1963年に誕生し、皆様のご支援により成長、発展することができました。時代は21世紀に入り技術の進歩がますます早くなってきております。

株式会社ライトは創造と進化を社是に更なる企業発展を目指していきます。

安定した生産を実現するための生産ラインはもちろんの事、快適と安心をもたらすビル、家庭の防犯システム構築、安全、信頼が要求される医療機器など、これらを実現する上でオートメーション製品は重要な役割を担っています。

一方、ご高承の通り世の中は環境保全に対する企業の社会的責任に関して、ますます要求が高まってきております。「快適FAを創造する」株式会社ライトは省力化、省エネルギー化、生活環境にやさしい製品を提案、提供できる人材を育成し関東圏に張り巡らせた9拠点のネットワークをより強化しサービスの向上を図る所存です。

2008年9月から環境活動として、エコアクション21取得への取組みを始め2009年6月に認証登録が完了しました。環境活動が本格的にスタートし二酸化炭素排出量・排水量・廃棄物の削減と共に、これまでの成果を踏まえて事務所内での活動から本来業務である販売活動を通して顧客先の環境負荷低減に役立つ情報提供に注力し、更なる環境配慮品の拡販を目指し低炭素社会の実現に努めてまいります。

## 社 是 創造と進化

### 行動指針

1. ライトは努力します。
2. ライトは挑戦します。
3. ライトは改善します。
4. ライトは成長します。
5. ライトは満足度を高めます。



# 環境経営方針

## 環境理念

株式会社ライトは、地球環境の保全が人類共通の最重要課題のひとつであると認識し「あらゆる事業活動において環境に配慮し、地球環境の保全に寄与する」ことを基本理念として活動します。

## 基本方針

株式会社ライトは、事業活動・商品・サービスに関わる環境影響を常に認識し、環境理念に基づき従業員全員でPDCAサイクルを回し環境負荷の軽減に継続的に取り組みます。

## 行動指針

1. 事業活動の全領域で省資源、省エネルギー、資源循環に配慮することを推進します。
2. 環境関係法令の遵守と、環境経営システムと環境保全実績が継続的に改善できるように推進します。
3. 環境教育、社内広報活動の実施により、全ての従業員に環境方針・実施体制を周知徹底すると共に環境保全に関する意識を高め、社内における環境保全状況の知識・認識の向上をはかります。
4. 運営にあたっては、エネルギーや資源の有効利用および廃棄物の削減と責任ある行動をとり、お客様に環境適合品・環境配慮品の提供に努めます。
5. 環境教育を推進し、全従業員が意識向上を図ると共に広く社会に目を向け、自らの責任を持って環境保全活動を遂行できるように啓発を行います。
6. お客様の環境負荷低減を図るため環境にやさしい情報やサービスを積極的に提供していきます。
7. 情報技術の活用による環境負荷低減や環境効率の向上など、お客様の環境問題に配慮した取引を積極的に推進します。
8. 以上の活動をレポートとしてまとめ、事務所に備え付け一般の閲覧を可能にします。

制定 2008年10月30日

改訂 2022年6月1日

株式会社 ライト

代表取締役 加藤 一也

## 事業活動の概要

### ■ 会社名及び代表者名

事業所名 株式会社ライト (<https://fa-right.co.jp/>)

代表者名 代表取締役 加藤 一也

### ■ 所在地

本社 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-12-14

千葉営業所 〒274-0825 千葉県船橋市前原西5-6-22

さいたま営業所 〒330-0803 埼玉県さいたま市大宮区高鼻町2-363-2 \*4

多摩営業所 〒192-0902 東京都八王子市上野町31-6

狭山営業所 〒350-1331 埼玉県狭山市新狭山2-5-20 \*4

相模原営業所 〒228-0803 神奈川県相模原市南区東林間5-17-1

つくば出張所 〒302-0115 茨城県守谷市中央4-13-17 NCビル 501 \*1

横浜営業所 〒221-0021 神奈川県横浜市神奈川区子安通1-5-6ライト子安ビル7F\*3

成田営業所 〒286-0033 千葉県富里市日吉台 1-6-1 アラビル3F \*2

\*1 つくば出張所は平成29年10月2日より事務所拡大移転致しました。

\*2 成田営業所は平成30年3月5日より事務所拡大移転致しました。

\*3 横浜営業所は平成30年4月20日より3Fフロアも倉庫として使用しました。(電力計測は9月～)

### ■ 対象活動範囲

ファクトリーオートメーション機器、コントロールパーツの販売

### ■ 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者 総務課 課長 鈴木 康二

連絡先 電話 03-5259-1711 (代表) FAX 03-5259-1758

### ■ 事業の規模

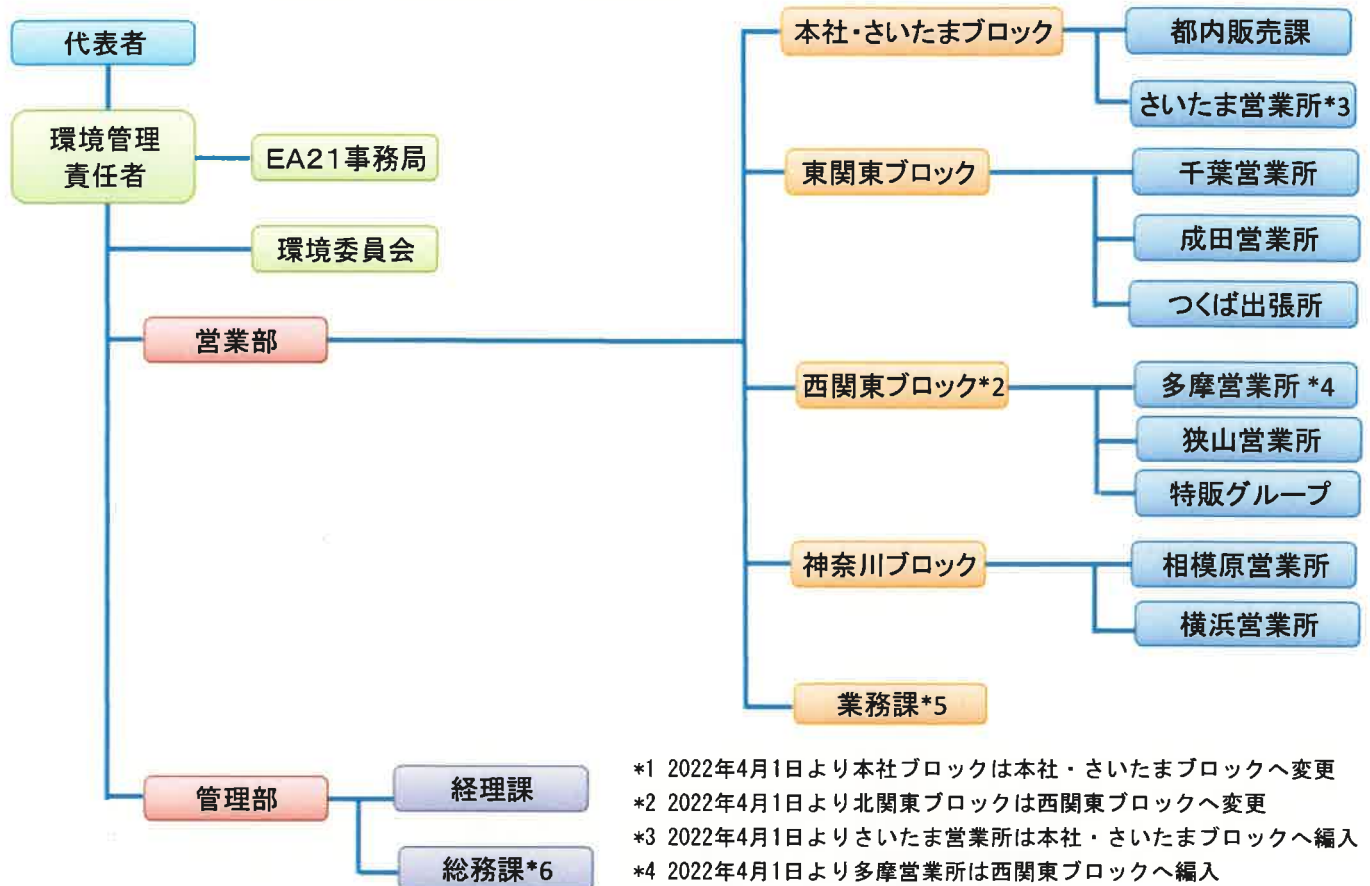
資本金 6,630万円

設立 1963年11月29日

活動規模	2020年度	2021年度	2022年度
売上高 (百万円)	3,561	4,018	4,387
従業員 (人)	68	70	70
事務所床面積 (㎡)	1,768	1,768	1,768

## EA21 推進体制と役割

株式会社ライトでは、各部門長が推進責任者を兼任し、環境委員として年2回のマネジメントレビューにて環境目標の達成状況などを報告・検討・決議しています。



- \*1 2022年4月1日より本社ブロックは本社・さいたまブロックへ変更
- \*2 2022年4月1日より北関東ブロックは西関東ブロックへ変更
- \*3 2022年4月1日よりさいたま営業所は本社・さいたまブロックへ編入
- \*4 2022年4月1日より多摩営業所は西関東ブロックへ編入
- \*5 2022年4月1日より業務課は営業部へ編入
- \*6 2022年4月1日より事業企画課は総務課へ変更

	役割
代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの推進に必要なインフラを整備し、資金・人・技術・時間を用意する</li> <li>・環境システムの見直しを実施し、当システムが有効であるために必要な改善に努める</li> <li>・経営おける課題とチャンスを整理し、明確にする。</li> <li>・環境管理責任者を任命し、実施体制・環境経営方針を周知する。</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営目標、計画や達成状況の把握、組織の見直しのとりまとめをする</li> <li>・環境経営システム監査の計画・実施・是正処置の指示及び承認をする</li> <li>・代表者への活動状況報告に必要な情報収集の指示を行う</li> <li>・代表者の見直しのための不適合を含む改善の実績等の代表者への報告を行う</li> </ul>
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施の集計を行う</li> <li>・環境活動の実績集計を行う</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)</li> </ul>
環境委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進責任者は、年2回マネジメントレビューに参加をし環境経営システムの運用状況の報告を受け問題が発生している場合は改善策の検討を行う</li> <li>・環境経営システムに問題が発生した場合適時に社長指示により開催される</li> </ul>
推進責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自部門の環境経営計画の作成および実施・達成状況の報告をする</li> <li>・自部門の従業員に対する環境教育訓練の実施をする</li> <li>・自部門の特定された緊急事態への対応の為の手順書を作成し、テスト・訓練を実施し記録の作成をする</li> <li>・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施をする</li> </ul>

## 2022年度 環境経営目標とその実績

2022年度の環境目標と実績および達成状況は以下のとおりです。

半期ごとにマネージメントレビューを行い未達成項目と問題点の改善を行っております。

環境目標	2021	2022			結果 前年度比	達成 状況	
	実績	目標値		実績			
二酸化炭素排出量	電力使用量 KWh/年	112,634	112,634	2021年度比	109,359	97.1%	○
	C02排出量 kg-C02/年 (購入電力排出係数 0.455及び 0.514)	55,923	55,923	100.0%	54,548	97.5%	○
	電力使用量 KWh/人	1,673	1,673	2021年度比100%	1,599	95.6%	○
	ガソリン使用量 L/年	43,811	43,811	2020年度比	41,285	94.2%	○
	C02排出量 kg-C02/年	101,714	101,714	100.0%	95,850		
	燃費率 km/l	15.2	15.2	2021年度比100%	15.1	99.3%	×
排水量	水道使用量 m <sup>3</sup> /年	385.5	385.5	2021年度比 100.0%	358.0	92.9%	◎
	水道使用量 m <sup>3</sup> /人	5.73	5.73	2021年度比 100.0%	5.23	91.3%	◎
廃棄物	廃棄物排出量 kg/年	2,090	2,090	2021年度比 100%	1,708	81.7%	◎
	廃棄物排出量 kg/人	30.3	30.3	2021年度比 100%	25.0	82.5%	◎
製品	環境配慮品の拡販 万円	243,229	253,657	2021年度比 104.3%	267,083	109.8%	◎

\* 弊社では、化学物質の使用及び取り扱いはありません。

欄が2022年度の目標値と結果です。

### 環境経営目標 達成状況について

当社では2018年度の目標より、人員増・事務所拡大・事業拡大(営業活動量増)等の要因での目標未達成を避ける為、一人当たりの使用量(電気/水/廃棄物)や燃費効率(ガソリン)での目標設定に変更しています。

達成状況としては、すべての項目で目標達成と言える結果でした。(燃費率のみ達成率99%)

燃費率は99%もガソリン使用量は削減できており、電力削減と合わせて二酸化炭素排出量削減に成功しております。事業と密接に関係する環境配慮品の拡販も前年比約110%の売上UPと好調でした。

昨年は記録的な猛暑の年でしたが全社員のエコ意識の高さもあり、節電・節水など削減達成できました。

## 主要な環境活動の取組み

### 電力

単位:KWh/人

前年度比	目標(100%)	結果(95.6%)	
	1,673	1,599	○

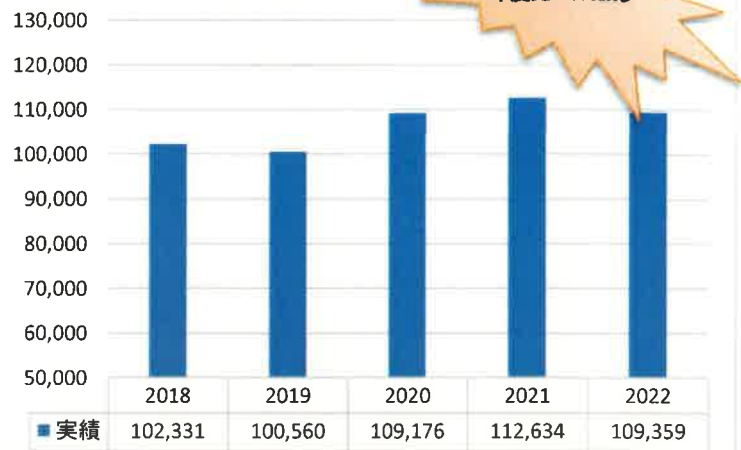
### 電力量の削減活動

- 冷暖房の設定温度遵守  
(冷房 28℃/暖房 20℃を目安とする)
- 外出時または未使用のパソコンの電源を切る
- 昼休みなど離席時にパソコンモニターの電源を切る
- 就業規定時間外の不要箇所の消灯を徹底する
- 働き方改革推進：業務効率化で時短勤務する



### 電力総使用量の過去5ヶ年

一人当たりでは前年度比4.4%減少



- 長時間の離席時及び昼休み等の消灯を徹底する
- 荷扱いなし倉庫などの無用な照明の電源を切る



本社の他、横浜営業所など順次、LED照明への切替えを推進中

今年度も全社にてクールビズ・ウォームビズを実施し節電を行ってきました。

### 評価

2022年度も引き続き、クールビズとウォームビズを実施し全社にて削減活動に取り上げた節電を行ってきました。

WEB会議システム推進、働き方改革による業務効率化と毎週水曜日のNO残業デーなどの時短勤務を前年に続き推進しました。

記録的な猛暑がありましたが、節電活動の徹底と空調機入替、室外機移設などが効果を発揮し、目標達成と前年比削減が出来ました。

### 今後の取組み

システム改善や新業務ツール(LINE WORKS)を使い効率化を推進し生産性上げ、リフレッシュデー徹底など時短勤務による節電活動を継続して参ります。また空調機やLED照明をはじめとした省エネ設備の随時検討・導入も推進して参ります。

2023年度は全社でPCと複合機を最新機種へ入替しますので業務効率改善が加速する見込みです。

クールビズ・ウォームビズの取組みも通年化し、年間通して働きやすい服装でエコ活動を推進していきます。



弊社初の太陽光発電システム(ダイワハウス)を導入した多摩営業所はECOな拠点です。



## ガソリン

燃費率 単位: km/ℓ

前年度比	目標 (100%)	結果 (99.3%)	
	15.2	15.1	×



トヨタ/カローラ フィールダー

営業車として弊社初のハイブリットカーを継続採用中(狹山営業所/特販G)

2022年度も高燃費率(20km/ℓ)でCO2削減に貢献しております。

### ガソリン使用量の削減活動

- エコドライブ10か条を守りガソリンの節約を行う
- 車輛管理表にて毎週、給油量・走行距離・オイル交換・空気圧点検等の管理を行う
- 車両リース満了時には燃費効率の良い軽自動車への入替えを積極的に推進しております
- 訪問ローテーションを守り効率よくお客様へ訪問をしてガソリンの節約を行う

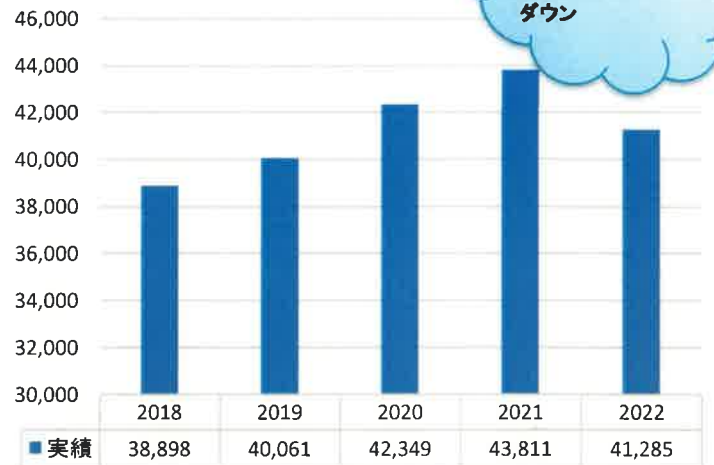
### 評価

2022年度も前年に続き燃費率向上を目標にし、エコドライブの徹底と効率の良い訪問を心掛けて取り組んで参りました。燃費率は15.2→15.1km/ℓへ若干ダウンしましたが、ガソリン使用量は前年比94.2%と削減でき、二酸化炭素排出量削減も出来ました。猛暑や売上UPでの削減にて評価できます。

### 今後の取り組み

今後もエコドライブ徹底と効率の良いルート営業見直しを継続し、燃費率の良い営業車への入替えを進めて燃費効率改善で二酸化炭素排出量削減に努めて参ります。今後は車両の適正保有数も見直し予定です。また安全運転管理者の設置/アルコールチェック等の安全管理も法令遵守し実施して参ります。

### ガソリン使用量の過去5ヶ年



### エコドライブ10か条

1. 不要なアイドリングはやめましょう
2. タイヤの空気圧をチェックしましょう
3. 不要な荷物を降ろしましょう
4. 暖機運転は適切に
5. 急発進、急加速はやめましょう
6. 車間距離は余裕を持って
7. エンジンブレーキを積極的に使しましょう
8. 駐車場所は良く考えて
9. 夏のカーエアコンの設定は1度高めに
10. 計画的にドライブをしましょう

## 水使用量

単位:ℓ/人

前年度比	目標 (100%)	結果 (91.3%)	
	5.73	5.23	◎

### 水使用量の削減活動

- 水道の蛇口の閉め忘れに注意し使用量を削減する
- 毎週の社内清掃時に水漏れ点検を行い無駄をなくす
- 屋外散水栓のハンドルは使用時のみ取付け使用する

### 評価

2022年度も前年に続き排水量の削減活動は一人当たりの使用量を削減目標に設定して取り組みました。2020年度はコロナ禍対策で手洗い/消毒が増え、多摩営業所での夏季休暇中の異常水量計測(近隣の不正使用疑い)もあり、大幅増となっていました。2022年度もコロナ禍対策は継続してましたが、全社員の節水努力により2年連続で前年度より約1割以上、水使用量を削減する事が出来ました。

### 今後の取り組み

今後もコロナ対策での手洗い/消毒の徹底は続きますが、全社員が行う定期清掃の際に水漏れ点検等を行うことや、節水啓蒙などの基本的な取組みを継続していきます。またエコな設備更新も随時検討して参ります。※節水活動と啓蒙は徹底出来ており、必要最小限の水使用量を削減維持出来るように努めて参ります。

### 水使用量の過去5ヶ年



## 廃棄物

単位:Kg/人

前年度比	目標 (100%)	結果 (82.5%)	
	30.3	25.0	◎

### 廃棄物の削減活動

- 一般廃棄物の分別を徹底し、出来る限り段ボール箱や緩衝材などは、再利用をして廃棄物を減らす。
- カタログ類は必要数量のみ手配して配布し、廃棄とならない様にする。電子カタログも利用。
- 無駄なデータのプリントをせずに電子化運用を推進。
- コピー用紙の裏紙使用を徹底する。
- お客様への連絡等をメールの有効活用にてペーパーレス(電子化)にする。

### 評価

2022年度は廃棄物の削減目標を達成することが出来ました。前年度比で約2割の廃棄量削減が出来ました。各種社内書類等のペーパーレス/電子化の推進と、紙資源や梱包材などの再利用が徹底された効果かと思われます。人員増減や人事異動等での一時的な整理廃棄による増加はありますが、分別廃棄含めエコ活動出来ております。

### 今後の取り組み

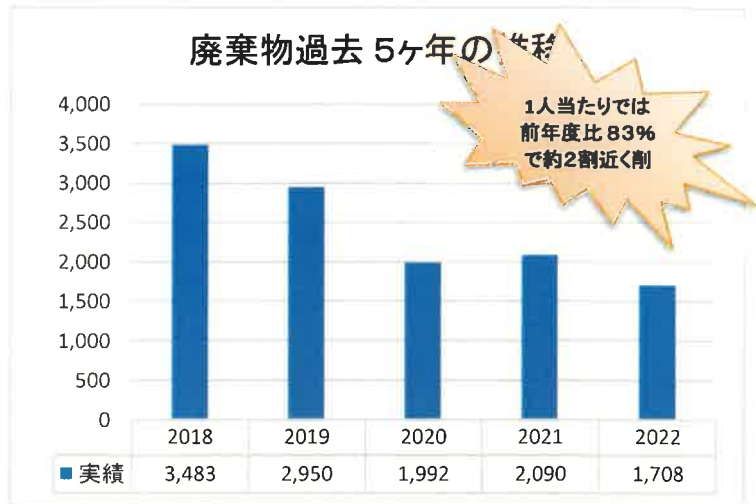
所内5S活動と称して整理整頓をはじめとする業務効率UPに繋がる活動を今後も積極的に行っていきます。特に文書・申請書類等の電子化推進及び電子保管を進め、ペーパーレス化と業務効率化を推進しております。WEB会議や電子カタログを利用した、ペーパーレス効率営業も展開中です。また2020年より社内書類を全社共有ファイルサーバーを導入し、電子管理と情報共有を積極展開しております。そして2022年5月からはLINE WORKSを導入し、さらなる業務効率化・電子化を推進しております。



\* リサイクル資材で分別BOXを作り分別の徹底を行っております



\* 各部署にてコピー用紙の裏書入れを作成し裏紙利用の徹底を行っております



## F Aの専門商社として専門分野での取組み

### 環境配慮品の拡販

単位:万円

前年度比	目標 (104.3%)	結果 (109.8%)	
	253,657	267,083	◎

#### 環境配慮品の拡販活動

- パナソニック・三菱電機・IDECの環境配慮型製品販売額にて算出する
- 環境配慮品の社内勉強会を行い、お客様へ的確な提案ができるようにする
- カタログPR配布部数、デモ機によるPRの実施回数を管理し拡販につなげる
- メーカー同行による詳細な製品紹介
- コロナ禍対策を徹底し、WEB会議システムを使った商談・PR等実施

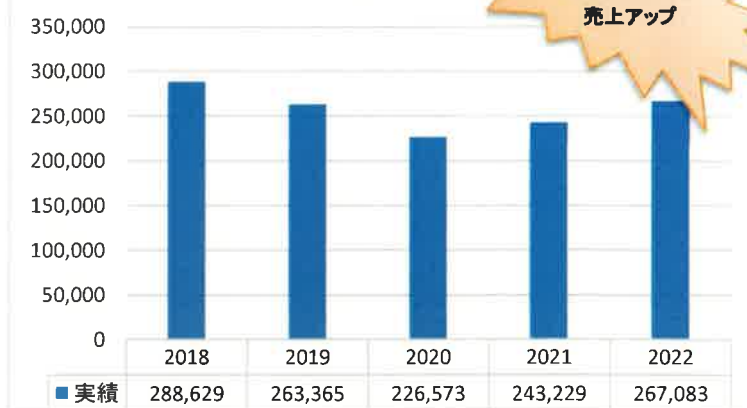
#### 評価

2022年度は環境配慮品販売額の目標を達成し、前年度比も約110%UPと好況でした。コロナ禍対策を徹底し、モバイルやWEB会議システム等のツール活用で顧客ニーズに迅速に対応し、半導体部品欠品といった納期問題には先行在庫や組織での納期フォローにて対処する事でピンチをチャンスとして対策できました。また開発PRの成功事例を社内発表会を通して情報共有し、営業力アップを図ったことも成果に繋がりました。

#### 今後の取組み

部品欠品による納期問題は今後もしばらく続くことが予想されますが、全社で対策を徹底して環境配慮品の拡販に注力して参ります。モバイルやWEB会議システムに加えてLINE WORKS等の新ツールも導入され、2023年度には新PCへの入替えもあるので、より効率的営業を推進してまいります。

#### 環境配慮品販売額過去5ヶ



弊社では、省エネ・省力化対応製品としてLED照明やインバータ・ACサーボモータそしてロボットシステムの提案にてお客様のECO活動に貢献をしております。

Think Automation and beyond...



**LG1H形**  
高天井用LED照明



IDEC株式会社



水銀灯の代替品にLED照明の提案 (IDEC株式会社提供)



産業用ロボット FRシリーズ (三菱電機株式会社提供)



直管型LED蛍光灯 (日栄インテック株式会社提供)



インバータFR-A800シリーズ (三菱電機株式会社提供)

取扱い主力メーカーでありますパナソニック株式会社殿、三菱電機株式会社殿をはじめ省エネ関連の商品を多数取り扱いをしております。  
省エネに関しましてご検討の際には是非弊社へお問合わせのほど宜しくお願い致します。

\* 弊社では、お客様の省力化のお手伝いとしてシステム提案等もさせて頂いております。  
これから、社内設備のロボットによる自動化をご検討をされますお客様には、三菱電機株式会社、株式会社デンソーウェーブ、ファナック株式会社等弊社取扱い製品の中から、最もお客様にマッチした製品のご紹介とシステム構築のお手伝いをさせて頂きますのでご用命をお待ちしております。

## パナソニック デバイスSUNX株式会社製 省エネ支援機器のご紹介

### 電力監視/制御に

# EcoLogiX

空調や照明を制御することにより、無駄な電力を削減

- 環境パラメータ機能により、快適空間をできる限り維持しながら、ピークカットを実現
- サーバなどのネットワークを通じて遠隔監視・制御が可能
- 制御パターンを設定ツールソフトで入力するだけの簡単設定
- 使用電力合算地をもとにしたピーク電力の監視/制御も可能
- クラウドサービスとの接続により、天気予報や販売データとの連携が可能(ELC2のみ)
- 電力需給バランスを調整するデマンドレスポンスに対応

### データ収集・蓄積に

データロガー Data Logger Light (DLL)  
誰もが、もっと簡単に。使用エネルギーの「見える化」を。

- オール・イン・ワンで、手軽に導入。設置  
USBポート、SD/SDHCメモリーカードスロット、ACフリー電源の採用などで、  
省施工、省配線で使用でき、利便性とコストメリットが上がります。
- パソコン単体でDLLの設定が完結できる専用ソフトウェア
- 設定変更はUSBとLAN環境の両方に対応
- SD・SDHCメモリーカード対応(CLASS10、最大32GB)
- ACフリー電源対応、DC24V、0.2A外部サービス電源搭載
- RS232C・RS485通信内蔵

### 電力監視に

エコパワーメータ KW9M SERIES  
省エネと電力品質監視を1台で両立

- 大画面で相別、トータル電力一括表示
- 高精度0.2%(電流・電圧計測制度)
- 高調波計測  
各種インバータ設備、蛍光灯照明等は高調波発生源です。精密機器等に悪影響を与え誤動作するおそれがあります。
- 相間不平衡計測(アドバンスドタイプ)  
変圧器がV型接続またはヒータ等不平衡負荷がある場合、各相間電圧不平衡を起し、  
モータ等設備がトルク不足になり発熱または寿命短縮に繋がる。

### 環境管理に EWA2 SERIES

- エア流量モニタ  
圧縮エアと窒素ガス(N<sub>2</sub>)使用量の「見える化」で、  
消費電力のムダを徹底チェック!  
※窒素ガスの計測は小・中口径タイプのみ
- 検出原理に超音波式を採用
  - 流量換算は、ノルマル流量とスタンダード流量
  - RS485通信MODBUS(RTU)搭載



### 遠隔制御に

# ECOnect

エコをつなぐ、エコが広がる

- 長距離：920MHz帯高速安定通信  
(伝送距離：ユニット・電力センサ約1,000m、温湿度約200m)
- 安定性：マルチポップ技術により自動で通信経路を構築
- 設置性：選べるアンテナで屋外設置・金属壁への取り付けが可能



パナソニック デバイスSUNX株式会社提供



パナソニック デバイスSUNX株式会社提供



パナソニック デバイスSUNX株式会社提供



パナソニック デバイスSUNX株式会社提供

## 環境教育・訓練実地状況

### 防災避難訓練

■ 環境教育・訓練の一環として今年度も、全社にて防災避難訓練を実施しました。

弊社では東日本大震災後、防災対策として各部署にヘルメット、非常持ち出し袋、寝袋、飲料水・非常食等が配布されております。

今後の地震等の災害に備え、地震時の行動について各部署にて手順書等を基に避難訓練の実施及び避難経路の確認等を行い、社員全員の防災に対する教育を行っております。

2022年の避難訓練も前年と同じく、社会(東京)が防災について意識が高まる9月に実施。(2016年までは1月実施)

今回も昨年同様に配布されている防災対策備蓄品の過不足や消費期限などの確認と不足分補充、そしてBCP対策を考慮した拠点別・事業所防災計画を更新し、各自の防災時役割分担、避難場所・手順、震災時/時差退社計画、給水所、緊急連絡(伝言板)などを確認し情報共有(人事異動などに対応しメンテナンス実施)。

今後も従業員全員が緊急の際にも慌てず行動できるように防災非難訓練を継続して行きます。



避難袋・備蓄品リストの確認



防災備蓄品・保存食など消費期限確認



地震 その時 10のポイント(社内掲示)



地震発生時の行動確認

## 全社環境目標 中期計画

人員計画69名にて算出(3ヶ年)

項目		2022年実績	2023年目標	2024年目標	2025年目標
二酸化炭素排出量	電力使用量 KWh/人	1,599	1,599	1,583	1,567
	電力使用量 KWh/年	112,634	基準年度比 100.0%	基準年度比 99%	基準年度比 98%
	CO2排出量 kg-CO2/人 (購入電力排出係数0.455及び 0.514)	798.0	798.0	790.0	782.0
	CO2排出量 kg-CO2/年 (購入電力排出係数0.455及び 0.514)	54,548	54,548	54,002	53,457
	自動車燃料 燃費率 km/ℓ	15.1	15.10 基準年度比 100.0%	15.10 基準年度比 100.0%	15.40 基準年度比 102.0%
	ガソリン使用量 L/年	41,285	41,285 基準年度比 100.0%	41,285 基準年度比 100.0%	40,459 基準年度比 98.0%
	CO2排出量 kg-CO2/年	95,850	95,850	95,850	93,933
排水量	水道使用量 m <sup>3</sup> /人	5.23	5.23 基準年度比 100.0%	5.18 基準年度比 99.0%	5.13 基準年度比 98.0%
廃棄物	廃棄物排出量 kg/人	25.0	25.0 基準年度比 100%	24.8 基準年度比 99%	24.5 基準年度比 98%
製品	環境配慮品の拡販 万円	267,083	263,151 基準年度比 99%	280,437 基準年度比 105%	293,791 基準年度比 110%

※2018年度の目標より1人あたりの電力・水の使用量削減、廃棄物排出量削減を目標とし、自動車燃料は燃費向上を目標としております。

※事務用品のグリーン購入はEA21ガイドライン2017版にて必須項目でない為、計測してませんが取組みは継続しています。

※環境配慮品については、主要メーカー環境配慮品型製品の販売額を集計しています。(三菱電機/パナソニック/IDEC)

## 環境関連法規制の遵守状況

### 当社に適用される主な環境関連法規

適用される法規制	遵守状況
廃棄物処理法	遵守
フロン排出抑制法	遵守

\* RoHS指令、WEEE指令は、顧客要求事項として管理をしております。

環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果違反はありませんでした。  
また、関係機関から特に指摘は無く、また訴訟もありません。



## 代表者による全体評価と見直し

- ・電力、ガソリン、水道水使用量の削減活動及び廃棄物処理量の削減は、全社員が其の活動の社会的な意義を十分理解し、目標を正確に把握して取り組んでおります。
- ・2022年度も前年度から続くコロナ禍対策(手洗い/換気/時差出勤/訪問営業自粛/WEB会議)を推進しました。エコ活動結果としては燃費改善目標以外は全項目で目標達成出来ました。燃費改善についても前年度比で燃費率99.3%、ガソリン使用量94.2%にて二酸化炭素排出量削減目標は達成していますので省エネ/削減目標を全て達成という好結果となりました。
- ・ビジネスの根幹となる環境配慮製品の拡販はコロナ禍に加えて世界的な半導体部品欠品という問題が発生継続し、メーカーの価格値上げも多く、商社としては厳しい状況でした。しかしリスクをチャンスとし、戦力在庫確保による受注増や値上げ交渉による利益改善で、前年比109.8%の売上アップを達成出来ました。
- ・継続実施中の社内業務効率改善では全社員にスマホを貸与し、スマホ内線化システムを構築し固定電話を最小限に大幅削減しました。これにより固定費削減及び取次業務減少による業務効率改善などを推進出来ました。
- ・今後もSDGsや脱炭素等の社会的要求に積極的に応えていけるように努力して参ります所存です。

◆ 生産性(売上エネルギー効率) : 2022年度も売上増で2年連続で生産性UPしました。

(総資源量(総売上量) / 1人当り / 1時間当たり) / (総エネルギー使用量 / 1人当り / 1時間当たり)

	2019年実績	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2023年目標
総資源量(円)	25,187	21,821	23,917	26,113	27,419
総エネルギー使用量(MJ)	14.43	15.37	15.93	15.23	15.53
円/MJ *1	1,745	1,420	1,501	1,715	1,765

\*1 使用した資源に対する1人当たりの売上量を表しています。

株式会社ライト  
環境経営レポート  
発行 2023年6月8日  
株式会社ライト EA21事務局  
東京都千代田区内神田1-12-14  
TEL:03-5259-1711  
FAX:03-5259-1758  
URL: <https://fa-right.co.jp>